

様式第 19

学 会 等 発 表 実 績

委託業務題目「重症好酸球性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略」

機関名：自治医科大学附属さいたま医療センター 耳鼻咽喉科

1. 学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果（発表題目、口頭・ポスター発表の別）	発表者氏名	発表した場所（学会等名）	発表した時期	国内・外の別
好酸球性中耳炎における中耳貯留液内の特異的IgE抗体について。口頭	金沢 弘美	第32回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会	2014年2月	国内
Symposium1－Allergy and Asthma Related Otitis Media. 口頭	飯野 ゆき子	15th KOREA JAPAN Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery	2014年4月	国外
Clinical Characteristics of Chronic Otitis Media in Adult without Cholesteatoma. 口頭	長谷川 雅世	15th KOREA JAPAN Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery	2014年4月	国外
Clinical Characteristics of Secondary Acquired Cholesteatoma. 口頭	飯野 ゆき子	The 4th East Asian Symposium on Otology	2014年5月	国外
好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(EGPA)による中耳炎の臨床像。口頭	吉田 尚弘	第115回日本耳鼻咽喉科学会総会ならびに学術講演会	2014年5月	国内
ANCA関連血管炎性中耳炎(OMAAV)の診断と治療を考える。口頭	吉田 尚弘	第24回日本耳科学会学術講演会	2014年10月	国内
好酸球性中耳炎症例の聴力推移と中耳粘膜病態。口頭	江洲 欣彦	第33回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会	2015年2月	国内

2. 学会誌・雑誌等における論文掲載

掲載した論文（発表題目）	発表者氏名	発表した場所（学会誌・雑誌等名）	発表した時期	国内・外の別
Risk factors associated with the severity of eosinophilic otitis media.	Kanazawa H, Yamamoto H, Hara M, Hasegawa M, Matsuzawa S, Shinnabe A, Yoshida N, Iino Y.	Auris Nasas Larynx	2014年	国外
Antigen-specific IgE in middle ear effusion of patients with eosinophilic otitis media.	Kanazawa H, Shinnabe A, Yoshida N, Iino Y.	Ann Allerg Asthma & Immunol	2014年	国外
Effect of omalizumab on biomarkers in middle ear effusion in patients with eosinophilic otitis media.	Iino Y, Hara M, Hasegawa M, Matsuzawa S, Shinnabe A, Kanazawa H, Yoshida N.	Acta Otalaryngol	2014年	国外
Practical guideline for management of acute rhinosinusitis in Japan.	Yamanaka N, Iino Y, Uno F, Kudo F, Kurono Y, Suzuki H, Haruna S, Hotomi M, Horiguchi S, Mashima Y, Matsubara S, Nakayama T, Hirakawa K, Okamoto Y.	Auris Nasus Larynx	2015年	国外
好酸球性副鼻腔炎と周辺疾患. VI. 好酸球性中耳炎	金沢弘美, 飯野ゆき子	アレルギー・免疫	2015年	国内

様式第 19

学 会 等 発 表 実 績

委託業務題目「重症好酸球性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略」

機関名 横浜市立大学附属市民総合医療センター 耳鼻咽喉科

1. 学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果（発表題目、口頭・ポスター発表の別）	発表者氏名	発表した場所（学会等名）	発表した時期	国内・外の別
好酸球性副鼻腔炎診断基準案に関する検討. 口頭	佐久間康德、山下ゆき子、湯田恵子、玉木望.	第53回日本鼻科学会総会	2014. 9	国内
ケナコルトA®の鼓室内注入によりアナフィラキシー様症状を起こした好酸球性中耳炎の一例. 口頭	湯田恵子、佐久間康德、山下ゆき子、折館伸彦.	第24回日本耳科学会総会	2014. 1	国内

2. 学会誌・雑誌等における論文掲載

掲載した論文（発表題目）	発表者氏名	発表した場所（学会誌・雑誌等名）	発表した時期	国内・外の別
Differential expression of periostin in the nasal polyp may represent distinct histological features of chronic rhinosinusitis.	Shiono O, Sakuma Y, Komatsu M, Hiram M, Yamashita Y, Ishitoya J, Oridate N.	Auris Nasus Larynx	2014. 9	国内
【喘息の周辺疾患】 好酸球性副鼻腔炎・好酸球性中耳炎 (解説/特集)	石戸谷 淳一、佐久間 康德.	アレルギー・免疫	2014. 3	国内

様式第19

学 会 等 発 表 実 績

委託業務題目「重症好酸球性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略」

機関名：獨協医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科

1. 学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果（発表題目、口頭・ポスター発表の別）	発表者氏名	発表した場所（学会等名）	発表した時期	国内・外の別
Management of (Invasive) Fungal Diseases in the Paranasal Sinuses. (口頭)	春名眞一	25th Congress of the European Rhinologic Society in conjunction with 33rd International Symposium of Infection & Allergy of the Nose.	2014. 6. 25	国外
慢性副鼻腔炎の病態と内視鏡手術 (口頭)	春名眞一	第100回鹿児島県耳鼻咽喉科学術講演会	2014. 9. 18	国内
好酸球性副鼻腔炎はなぜ両側性病変を呈するのか - 呼気流の関与について - (口頭)	春名眞一, 吉田拓人, 山川秀致	第53回日本鼻科学会	2014. 9. 27	国内
Thiel法で固定を行った解剖体を用いた内視鏡下鼻副鼻腔解剖経験 (口頭)	吉田拓人, 山川秀致, 今野渉, 春名眞一	第115回日本耳鼻咽喉科学会	2014. 5. 16	国内
内視鏡下鼻内手術にて治療を行った嗅神経芽細胞腫の3症例 (口頭)	吉田拓人, 中山次久, 後藤一貴, 山川秀致, 金谷洋明, 中島逸男, 春名眞一	第53回日本鼻科学会	2014. 9. 26	国内

2. 学会誌・雑誌等における論文掲載

掲載した論文（発表題目）	発表者氏名	発表した場所（学会誌・雑誌等名）	発表した時期	国内・外の別
慢性副鼻腔炎に対する内視鏡下副鼻腔手術 新たな手術分類とその評価	春名眞一, 友田幸一, 黒野祐一, 平川勝洋, 三輪高喜, 松根彰志, 鴻信義, 朝子幹也, 竹内裕美, 竹中洋, 岡本美孝	日本鼻科学会会誌	2014. 9	国内

委託業務題目「重症好酸球性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略」
機関名 広島大学大学院医歯薬保健学研究院 耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学

1. 学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果（発表題目、口頭・ポスター発表の別）	発表者氏名	発表した場所 （学会等名）	発表した時期	国内・外の別
胃酸刺激によるヒト気道上皮細胞由来上皮性サイトカイン発現の検討、口頭	石野岳志	第34回気道分泌研究会	平成26年4月27日	国内
咽喉頭酸逆流症による気道上皮細胞障害とアレルギー誘導について、口頭	石野岳志	第64回日本アレルギー学会	平成26年5月9日～11日	国内
胃酸刺激によるヒト気道上皮細胞におけるIL-33発現の検討、口頭	石野岳志	第53回日本鼻科学会	平成26年9月25日～27日	国内
好酸球性副鼻腔炎症例における前頭洞粘膜のサイトカイン発現の特徴、口頭	久保田和法	第64回日本アレルギー学会	平成26年5月9日～11日	国内
慢性副鼻腔炎症例におけるNO代謝とAsymmetric dimethylarginine（ADMA）についての検討、口頭	樽谷貴之	第53回日本鼻科学会	平成26年9月25日～27日	国内
呼気中一酸化窒素濃度モニタリングとArginase-2の発現からみた副鼻腔炎病態の比較検討、口頭	佐々木淳	第53回日本鼻科学会	平成26年9月25日～27日	国内

2. 学会誌・雑誌等における論文掲載

掲載した論文（発表題目）	発表者氏名	発表した場所 （学会誌・雑誌等名）	発表した時期	国内・外の別
Nitric oxide is a possible reliable marker for evaluation of nasal allergy and chronic sinusitis.	Takeno S.	Proceeding of Airway Secretion Research 14: 25-26.	2014	国内
Comparison of Nasal Nitric Oxide Levels between the Inferior Turbinate Surface and the Middle Meatus in Patients with Symptomatic Allergic Rhinitis.	Takeno S, Yoshimura H, Kubota K, Taruya T, Ishino T, Hirakawa K.	Allergol Int. 2014 Sep; 63(3): 475-83. doi:10.2332/allergolint.14-0A-0689	2014	国内

様式第 19

学 会 等 発 表 実 績

委託業務題目「重症好酸球性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略」

機関名：札幌医科大学 耳鼻咽喉科

1. 学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果（発表題目、口頭・ポスター発表の別）	発表者氏名	発表した場所（学会等名）	発表した時期	国内・外の別
Expression of leukotriene E4 receptor:GPR80/99 in human nasal mucosa. oral	Shirasaki H, Kanaizumi E, Seki N, Himi T.	European Academy of Allergy and Clinical Immunology Congress.	平成26年6月7～11日	国外
RS virus infection of human nasal epithelial cells. oral	Takano K, Okuni T, Ogasawara N, Obata K, Nomura K, Kojima T, Himi T.	ERS/ISIAN 2014	平成26年6月22～26日	国外
P aeruginosa elastase causes transient disruption of tight junctions and downregulation of PAR-2 in human nasal epithelial cells. Oral.	Nomura K, Kojima T, Obata K, Kurose M, Takano K, Keira T, Miyata R, Himi T.	ERS/ISIAN 2014	平成26年6月22～26日	国外
The role of microRNA in human nasal epithelial barrier. Oral	Miyata R, Kakuki T, Nomura K, Ogasawara N, Ohkuni T, Kohno T, Takano K, Himi T, Kojima T.	EMBO/EMBL Symposium 2014 Epithelia	平成26年8月27～30日	国外
血管内皮細胞におけるロイコトリエン受容体の発現と機能-Th2サイトカインによる調節. 口頭	白崎英明, 才川悦子, 関伸彦, 菊池めぐみ, 氷見徹夫	日本鼻科学会	平成26年9月25～27日	国内

2. 学会誌・雑誌等における論文掲載

掲載した論文（発表題目）	発表者氏名	発表した場所（学会誌・雑誌等名）	発表した時期	国内・外の別
Pseudomonas aeruginosa elastase causes transient disruption of tight junctions and downregulation of PAR-2 in human nasal epithelial cells.	Nomura K, Obata K, Keira T, Miyata R, Hirakawa S, Kohno T, Sawada N, Himi T, Kojima T.	Respir Res 18; 15-21 2014	2014年	国外
鼻粘膜とウイルス感染	氷見徹夫, 柏木征三郎	インフルエンザ 15(1)9-15 2014	2014年	国内
ウイルス性上気道炎での免疫応答と鼻粘膜上皮の役割	氷見徹夫, 高野賢一, 大國毅, 小笠原徳子, 正木智之, 小幡和史, 堤裕幸, 小島隆, 澤田典均, 横田伸一	耳鼻咽喉科展望 56(4):162-177 2013	2013年	国内
扁桃・アデノイドはなぜあるのか？鼻は何をしているのか？小児の粘膜免疫・粘膜防御最前線	氷見徹夫, 高野賢一, 山下恵司, 小笠原徳子, 正木智之, 小幡和史, 堤裕幸, 小島隆, 一宮慎吾, 澤田典均, 横田伸一	小児耳鼻咽喉科 34(3):239-244 2013	2013年	国内
アレルギー性鼻炎における鼻粘膜上皮と樹状細胞	高野賢一	臨床免疫・アレルギー科61(3):285-291 2014	2014年	国内

様式第 19

学 会 等 発 表 実 績

委託業務題目「重症好酸球性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略」

機関名：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 耳鼻咽喉・頭頸部外科学

1. 学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果（発表題目、口頭・ポスター発表の別）	発表者氏名	発表した場所（学会等名）	発表した時期	国内・外の別
黄色ブドウ球菌コンポーネントによる好酸球性副鼻腔炎の制御（口頭）	岡野光博	第53回日本鼻科学会	2014年9月25日	国内
花粉症とプロバイオティクス（口頭）	岡野光博	日本アレルギー学会第1回総合アレルギー講習会	2014年12月20日	国内
鼻茸線維芽細胞のVEGF産生におけるプロスタグランジンD2の関与（ポスター）	金井健吾	第33回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会	2015年2月28日	国内

2. 学会誌・雑誌等における論文掲載

掲載した論文（発表題目）	発表者氏名	発表した場所（学会誌・雑誌等名）	発表した時期	国内・外の別
Local expression of IL-17A is correlated with nasal eosinophilia and clinical severity in allergic rhinitis.	Makihara S, Okano M, Fujiwara T, Noda Y, Higaki T, Miyatake T, Kanai K, Haruna T, Kariya S, Nishizaki K.	Allergy and Rhinology	2014	国外
Pulmonary function in patients with chronic rhinosinusitis and allergic rhinitis.	Kariya S, Okano M, Oto T, Higaki T, Makihara S, Haruna T, Nishizaki K.	The Journal of Laryngology and Otology	2014	国外
Cellular responses to Staphylococcus aureus alpha-toxin in chronic rhinosinusitis with nasal polyps.	Okano M, Fujiwara T, Kariya S, Higaki T, Haruna T, Matsushita O, Noda Y, Makihara S, Kanai K, Noyama Y, Taniguchi M, Nishizaki K.	Allergology International	2014	国内

Chronic rhinosinusitis patients have decreased lung function.	Kariya S, Okano M, Higaki T, Noyama Y, Haruna T, Ishihara H, Makino T, Onoda T, Nishizaki K.	Int Forum Allergy Rhinol	2014	国外
Staphylococcal protein A-formulated immune complexes suppress enterotoxin-induced cellular responses in nasal polyps.	Okano M, Fujiwara T, Kariya S, Haruna T, Higaki T, Noyama Y, Makihara S, Kanai K, Nishizaki K.	Journal of Allergy and Clinical Immunology	2015	国外

様式第 19

学 会 等 発 表 実 績

委託業務題目「重症好酸球性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略」

機関名：東邦大学医学部 耳鼻咽喉科学講座

1. 学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果（発表題目、口頭・ポスター発表の別）	発表者氏名	発表した場所（学会等名）	発表した時期	国内・外の別
Increased IP-10 expressions in nasal fibroblasts from patients with refractory chronic rhinosinusitis and asthma (ポスター)	Yoshikawa M, Wada K, Yoshimura T, Asaka D, Moriyama H.	2014 American Academy of Allergy, Asthma & Immunology (AAAAI) annual meeting	2014年3月1日	国外
副鼻腔真菌症の診断と治療（口頭）	吉川 衛	第115回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会	2014年5月15日	国内
好酸球性副鼻腔炎の診断基準の作成と病態解明に向けて（口頭）	吉川 衛	第65回関東耳鼻咽喉科アレルギー懇話会	2014年9月21日	国内
慢性副鼻腔炎の難治化因子の解明にむけて（口頭）	吉川 衛	第8回埼玉上気道疾患研究会	2014年1月22日	国内

2. 学会誌・雑誌等における論文掲載

掲載した論文（発表題目）	発表者氏名	発表した場所（学会誌・雑誌等名）	発表した時期	国内・外の別
好酸球性副鼻腔炎 総論	吉川 衛	アレルギー・免疫	2014年12月	国内

様式第 19

学 会 等 発 表 実 績

委託業務題目「重症好酸球性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略」

機関名 東京慈恵会医科大学 耳鼻咽喉科

1. 学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果（発表題目、口頭・ポスター発表の別）	発表者氏名	発表した場所（学会等名）	発表した時期	国内・外の別
Endoscopic Modified Medial Maxillectomy: approaching to the anterior, inferior and lateral wall of the maxillary sinus.	Otori N	Seoul, Korea	April, 2014.	国外
FESS vs ESS; indications and technical hints. (round table discussion)	Otori N	Milano, Italy	April, 2014.	国外
The Frontal sinus. (round table discussion)	Otori N	Amsterdam, The Netherland	June, 2014.	国外
Management of complications of acute rhinosinusitis. (round table discussion)	Otori N	Amsterdam, The Netherland	June, 2014.	国外
ESSにおけるマイクロデブリッターの安全かつ有効な使い方。(ランチョンセミナー)	鴻 信義	米子市	2014年11月	国内
Powered endoscopic sinus surgery (PESS) -how to use microdebrider safely & effectively. (round table discussion)	Otori N	Dubai, UAE	April, 2014.	国外
Endoscopic modified medial maxillectomy for the maxillary lesions. (round table discussion)	Otori N	Dubai, UAE	April, 2014.	国外
ESSにおける副損傷とその対応法 -眼窩損傷を中心に-	鴻 信義	大阪市	2015年1月	国内

2. 学会誌・雑誌等における論文掲載

掲載した論文（発表題目）	発表者氏名	発表した場所（学会誌・雑誌等名）	発表した時期	国内・外の別
Endoscopic modified medial maxillectomy for odontogenic cysts and tumours.	Nakayama T, Otori N, Asaka D, Okushi T, Haruna S.	Rhinology. 52(4):376-80.	2014, Dec	国外
Endoscopic single-handed septoplasty with batten graft for caudal septum deviation.	Nakayama T, Okushi T, Yamakawa S, Kuboki A, Haruna S.	Auris Nasus Larynx. 41(5):441-5.	2014 Jun	国外
鼻科領域におけるナビゲーション	鴻 信義	日耳鼻 117 751-757	2014	国内
鼻性髄液漏閉鎖術のコツ	鴻 信義	JOHNS 31 215-218	2015	国内
マイクロデブリッターによる下鼻甲介粘膜手術	鴻 信義	耳喉頭頸 87 43-46	2015	国内

様式第 19

学 会 等 発 表 実 績

委託業務題目「重症好酸球性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略」
機関名：千葉大学大学院医学研究院 耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学

1. 学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果（発表題目、口頭・ポスター発表の別）	発表者氏名	発表した場所（学会等名）	発表した時期	国内・外の別
上気道粘膜の免疫応答とその治療への応用；アレルギー性鼻炎と頭頸部がんに対して	岡本 美孝	ヒルトン福岡シーホーク（第115回日本耳鼻咽喉科学会）	2014年5月15日	国内

2. 学会誌・雑誌等における論文掲載

掲載した論文（発表題目）	発表者氏名	発表した場所（学会誌・雑誌等名）	発表した時期	国内・外の別
The IL-33/ST2-p38 axis confers memory Th2 cell pathogenicity in the airway.	Endo Y, Hirahara K, Iinuma T, Shinoda K, Tumes DJ, Yamamoto H, Okamoto Y, Nakayama T.	Immunity. 42, 294-308		国外
Mucosal T cells that express high IL-17RB levels are involved in the pathogenesis of eosinophilic chronic rhinosinusitis with nasal polyps. Annals of Allergy.	Iinuma T, Okamoto Y, Yamamoto H, Inamine A, Sakurai D, Funakoshi U, Yonekura S, Sakurai D, Nakayama T.	Asthma and Immunology	in press.	国外

様式第 19

学 会 等 発 表 実 績

委託業務題目「重症好酸球性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略」

機関名：東京慈恵会医科大学 分子疫学研究部

1. 学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果（発表題目、口頭・ポスター発表の別）	発表者氏名	発表した場所（学会等名）	発表した時期	国内・外の別
なし				

2. 学会誌・雑誌等における論文掲載

掲載した論文（発表題目）	発表者氏名	発表した場所（学会誌・雑誌等）	発表した時期	国内・外の別
Effects of vitamin D supplements on influenza A illness during the 2009 H1N1 pandemic: a randomized controlled trial.	Urashima M, Mezawa H, Noya M, Camargo CA Jr.	Food Funct. 5(9):2365-70.	2014 Sep	国外

様式第 19

学 会 等 発 表 実 績

委託業務題目「重症好酸球性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略」

機関名：関西医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科

1. 学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果（発表題目、口頭・ポスター発表の別）	発表者氏名	発表した場所（学会等名）	発表した時期	国内・外の別
気道炎症におけるCX3CR1の機能的役割（一般演題）	神田晃、 小林良樹、 朝子幹也、 友田幸一	第23回ニューロサイエンス研究会	2014. 08	国内
気道炎症局所の好酸球は多様なフェノタイプを有し炎症を制御する（シンポジウム）	神田晃、 小林良樹、 朝子幹也、 David Dombrowicz、 友田幸一	第53回日本鼻科学会総会・学術講演会	2014. 09	国内
鼻茸組織の細胞分離と単離（gentleMACSを用いた細胞の分離とMACS cell separationシステムやCell sorterを用いた細胞の単離方法）（ハンズオンセミナー）	神田晃	第53回日本鼻科学会総会・学術講演会	2014. 09	国内
活性化好酸球由来のTh1 cytokineはTh2 pathologyを調整する（一般演題）	神田晃、 小林良樹、 朝子幹也、 David Dombrowicz、 友田幸一	第28回アレルギー・好酸球研究会	2014. 10	国内
Nasal-bronchial reflexによる上気道と下気道のinteractionと当教室における気道外来の取り組み（シンポジウム）	神田晃、 小林良樹、 朝子幹也、 友田幸一	第66回日本気管食道学会	2014. 11	国内

2. 学会誌・雑誌等における論文掲載

掲載した論文（発表題目）	発表者氏名	発表した場所（学会誌・雑誌等名）	発表した時期	国内・外の別
Bystander immunotherapy as a strategy to control allergen-driven airway inflammation.	Navarro S, Lazzari A, Kanda A, Fleury S, Dombrowicz D, Glaichenhaus N, Julia V.	Mucosal Immunol	2014, Nov	海外
A novel therapeutic use of HFA-BDP metereddose inhaler for asthmatic patients with rhinosinusitis: Case series	Kobayashi Y, Asako M, Kanda A, Tomoda K, Yasuba H.	Int J Clin Pharmacol Ther	2014, Oct	海外

様式第 19

学 会 等 発 表 実 績

委託業務題目「重症好酸球性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略」

機関名：順天堂大学 耳鼻咽喉科学講座

1. 学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果（発表題目、口頭・ポスター発表の別）	発表者氏名	発表した場所（学会等名）	発表した時期	国内・外の別
鼻粘膜および鼻茸初代培養上皮細胞のIL-17A刺激による各種サイトカインの網羅的解析（ポスター発表）	塩澤 晃人, 三輪 正人, 池田 勝久	第32回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会	2014年2月	国内
副鼻腔と中耳の細菌感染の治療戦略 ニューキノロンの位置付け（口頭発表）	池田 勝久	第2回日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会	2014年9月	国内
ESS後にアスピリン減感作療法を併用したAIAの臨床経過効果と問題点の検討（ポスター発表）	村田 潤子, 岡田 弘子, 小松 広明, 本間 博友, 小野 倫嗣, 沖崎 貴子, 伊藤 伸, 池田 勝久	第53回日本鼻科学会	2014年9月	国内

2. 学会誌・雑誌等における論文掲載

掲載した論文（発表題目）	発表者氏名	発表した場所（学会誌・雑誌等名）	発表した時期	国内・外の別
Subclassification of chronic rhinosinusitis with nasal polyp based on eosinophil and neutrophil.	Ikeda K, Shiozawa A, Ono N, Kusunoki T, Hirotzu M, Homma H, Saitoh T, Murata J.	Laryngoscope	2013 May 13	国外
慢性鼻副鼻腔炎・鼻茸の病態と治療.	池田 勝久	耳鼻咽喉科臨床 2013, 106(7):573-580.	2013	国内
Reduction in Superoxide Dismutase Expression in the Epithelial Mucosa of Eosinophilic Chronic Rhinosinusitis with Nasal Polyps.	Ono N, Kusunoki T, Miwa M, Hirotzu M, Shiozawa A, Ikeda K.	Int Arch Allergy Immunol 162(2):173-180.	2013	国外
【unified airwayからみた鼻副鼻腔病変】 気道疾患と鼻副鼻腔病変 鼻副鼻腔炎と気管支喘息.	池田 勝久	JOHNS 2013, 29(5):845-849.	2013	国内
鼻粘膜および鼻茸初代培養上皮細胞のIL-17A刺激による各種サイトカインの網羅的解析	塩澤 晃人, 三輪 正人, 池田 勝久	耳鼻咽喉科免疫アレルギー (0913-0691)32 巻 2 号 Page131 (2014. 07)	2014年2月	国内
副鼻腔と中耳の細菌感染の治療戦略 ニューキノロンの位置付け	池田 勝久	日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会会誌 (2188-0077)2 巻 3 号 Page44 (2014. 09)	2014年9月	国内
ESS後にアスピリン減感作療法を併用したAIAの臨床経過効果と問題点の検討	村田 潤子, 岡田 弘子, 小松 広明, 本間 博友, 小野 倫嗣, 沖崎 貴子, 伊藤 伸, 池田 勝久	日本鼻科学会会誌 (0910-9153)53 巻 3 号 Page449 (2014. 09)	2014年9月	国内
Fungal extracts detected in eosinophilic chronic rhinosinusitis induced cytokines from the nasal polyp cells.	Hirotzu M, Shiozawa A, Ono N, Miwa M, Kikuchi K, Ikeda K.	Laryngoscope. 2014 Sep;124(9):E347-53.	2014	国外

委託業務題目「重症好酸球性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略」
機関名：金沢医科大学 耳鼻咽喉科学

1. 学会等における口頭・ポスター発表				
発表した成果（発表題目、口頭・ポスター発表の別）	発表者氏名	発表した場所（学会等名）	発表した時期	国内・外の別
Olfactory transport is necessary for nasally administered insulin-like growth factor-I to increase phosphorylation of extracellular signal-regulated kinase 1/2 in the cerebrum of mice、ポスター	Shiga H, Nagaoka M, Washiyama K, Yamamoto J, Yamada K, Noda T, Harita M, Amano R, Miwa T.	The 36th annual meeting of the Association for Chemoreception Sciences	2014年4月	国外
慢性副鼻腔炎における嗅覚障害の治療成績、口頭	寺口奏子, 張田雅之, 能田拓也, 山田健太郎, 木下裕子, 山本純平, 志賀英明, 三輪高喜	日本耳鼻咽喉科学会総会 学術講演会	2014年5月	国内
鼻副鼻腔疾患の治療 Up To Date、口頭	三輪高喜	滋賀県耳鼻咽喉科研究会	2014年5月	国内
嗅覚の加齢変化とアンチエイジング、口頭	三輪高喜	日本抗加齢医学会	2014年6月	国内
鼻副鼻腔炎と嗅覚障害、口頭	三輪高喜	静岡県耳鼻咽喉科医会	2014年6月	国内
アレルギーと嗅覚障害、口頭	三輪高喜	第10回中国四国喘息研究フォーラム	2014年8月	国内
Changes in smell and taste function in the elderly ポスター	Miwa T, Yamamoto J, Teraguchi K, Kinoshita Y, Yamada K, Noda T, Harita M, Shiga H, Sugiyama E, Ono K, Kawai M.	European Chemoreception Research Organization 2014	2014年9月	国外
Assessment of peripheral olfactory nerve image in patients with idiopathic olfactory impairments in comparison to healthy volunteers、ポスター	Shiga H, Taki J, Okuda K, Watanabe N, Tonami H, Kinuya S, Furukawa M, Miwa T.	European Chemoreception Research Organization 2014	2014年9月	国外
好酸球性副鼻腔炎手術療法における上鼻甲介部切除例と保存例の術後嗅覚の比較、口頭	志賀英明, 山本純平, 山田奏子, 三輪高喜	第53回日本鼻科学会	2014年9月	国内
Outcomes of olfactory function after endoscopic sinus surgery for eosinophilic chronic sinusitis、口頭	Harita M, Yamada K, Yamamoto J, Teraguchi K, Miyazawa T, Shiga H, Suzuka Y, Miwa T.	The 31st Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter in Taipei	2014年10月	国外
Changes in smell and taste function in the elderly、ポスター	Miwa T, Yamamoto J, Teraguchi K, Kinoshita Y, Yamada K, Noda T, Harita M, Shiga H, Sugiyama E, Ono K, Kawai M.	Clinical Chemosensation 2014, Dresden	2014年11月	国外
Predictors of olfactory dysfunction in chronic rhinosinusitis、ポスター	Harita M, Yamada K, Noda T, Teraguchi K, Shiga H, Miwa T.	Clinical Chemosensation 2014	2014年11月	国外

2. 学会誌・雑誌等における論文掲載

掲載した論文（発表題目）	発表者氏名	発表した場所 （学会誌・雑誌等名）	発表した時期	国内・外の別
簡便な嗅覚検査	三輪高喜	JOHNS	2014年5月	国内
Combinations of two odorants of smell identification test for screening of olfactory impairment	Shiga H, Yamamoto J, Kitamura M, Nakagawa H, Matsubasa T, Seo A.	Auris Nasus Larynx	2014年6月	国外
嗅覚障害	三輪高喜	内科	2014年6月	国内
Reduced nasal transport of insulin-like growth factor-1 to the mouse cerebrum with olfactory bulb resection.	Shiga H, Nagaoka M, Washiyama K, Yamamoto J, Yamada K, Noda T, Harita M, Amano R, Miwa T.	Chem. Senses	2014年9月	国外
神経再生に有効な薬剤	三輪高喜	JOHNS	2014年10月	国内
嗅覚障害の疫学と臨床像	三輪高喜	日本医師会雑誌	2014年12月	国内

様式第 19

学 会 等 発 表 実 績

委託業務題目「重症好酸球性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略」

機関名：三重大学大学院医学系研究科 耳鼻咽喉・頭頸部外科

1. 学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果（発表題目、口頭・ポスター発表の別）	発表者氏名	発表した場所（学会等名）	発表した時期	国内・外の別
好酸球性副鼻腔炎における嗅覚障害の治療。口頭発表（シンポジウム講演）	小林正佳	日本鼻科学会	2014年9月25日	国内

2. 学会誌・雑誌等における論文掲載

掲載した論文（発表題目）	発表者氏名	発表した場所（学会誌・雑誌等名）	発表した時期	国内・外の別
なし				

様式第19

学 会 等 発 表 実 績

委託業務題目「重症好酸球性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略」

機関名：東京大学 耳鼻咽喉科

1. 学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果（発表題目、口頭・ポスター発表の別）	発表者氏名	発表した場所（学会等名）	発表した時期	国内・外の別
好酸球性副鼻腔炎における鼻茸組織内の好塩基球浸潤と重症度の関係について（口頭発表）	籠谷領二、 近藤健二、 馬場信太郎、 平野真希子、 鈴木佳吉、 菊田周、 山嵜達也	日本鼻科学会	平成26年9月26日	国内

2. 学会誌・雑誌等における論文掲載

掲載した論文（発表題目）	発表者氏名	発表した場所（学会誌・雑誌等名）	発表した時期	国内・外の別
Correlation of Basophil Infiltration in Nasal Polyps Correlates with the Severity of Chronic Rhinosinusitis.	Kagoya R, Kondo K, Baba S, Toma-Hirano M, Nishijima H, Suzukawa K, Kikuta S, Yamasoba T.	Ann Allergy Asthma Immunol 114: 30-35, 2015.	2015	国外
Local increase in IgE and class switch recombination to IgE in nasal polyps in chronic rhinosinusitis.	Baba S, Kondo K, Toma-Hirano M, Kanaya K, Suzukawa K, Ushio M, Suzukawa M, Ohta K, Yamasoba T.	Clin Exp Allergy 44: 701-12, 2014.	2014	国外
Tumour necrosis factor inhibitor-associated sinusitis.	Yoshihara S, Kondo K, Kanaya K, Suzukawa K, Baba S, Toma-Hirano M, Kikuta S, Iwasaki Y, Fujio K, Yamasoba T.	Rhinology 52: 246-251, 2014	2014	国外
Expression of IL-33 and its receptor ST2 in chronic rhinosinusitis with nasal polyp.	Baba S, Kondo K, Kanaya K, Suzukawa K, Ushio M, Urata S, Asakage T, Kakigi A, Suzukawa M, Ohta K, Yamasoba T.	Laryngoscope 124: 115-22, 2014	2014	国外

様式第19

学 会 等 発 表 実 績

委託業務題目「重症好酸球性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略」

機関名：兵庫医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

1. 学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果（発表題目、口頭・ポスター発表の別）	発表者氏名	発表した場所（学会等名）	発表した時期	国内・外の別
慢性副鼻腔炎における篩骨洞のCT 所見と嗅覚障害の関連性 口頭	都築建三, 児島雄介, 雪辰依子, 阪上雅史	第115回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会	2014. 5	国内
副鼻腔手術後の内視鏡スコアと CTスコア 口頭	都築建三, 児島雄介, 雪辰依子, 阪上雅史	第53回日本鼻科学会総会・学術講演会	2014. 9	国内
好酸球性副鼻腔炎の術前・術中所見の検討 口頭	都築建三, 児島雄介, 雪辰依子, 竹林宏記, 岡 秀樹, 阪上雅史	第25回日本頭頸部外科学会総会・学術講演会 大阪	2015. 1	国内
慢性副鼻腔炎による嗅覚障害に対して有効な薬物療法は何か 口頭	都築建三	第2回嗅覚冬のセミナー 高知	2015. 1	国内
アスピリン喘息を合併した好酸球性副鼻腔炎の術前検討 ポスター	都築建三, 児島雄介, 雪辰依子, 齋藤孝博, 阪上雅史	第33回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 東京	2015. 2	国内
Olfactory changes after endoscopic sinus surgery in patients with chronic rhinosinusitis 口頭	Tsuzuki K, Kojima Y, Yukitatsu Y, Oka H, Sakagami M.	15th Korea-Japan Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery	2014. 4	国外

2. 学会誌・雑誌等における論文掲載

掲載した論文（発表題目）	発表者氏名	発表した場所（学会誌・雑誌等名）	発表した時期	国内・外の別
好酸球性副鼻腔炎の手術症例における臨床検討	都築建三, 児島雄介, 雪辰依子, 阪上雅史	耳鼻咽喉科免疫アレルギー	2014. 4	国内
慢性副鼻腔炎による嗅覚障害に対する 内視鏡下副鼻腔手術の治療効果	都築建三, 児島雄介, 雪辰依子, 竹林宏記, 岡 秀樹, 阪上雅史	日鼻誌	2014. 12	国内
Novel endoscopic scoring system after sinus surgery.	Tsuzuki K, Hinohira Y, Takebayashi H, Kojima Y, Yukitatsu Y, Daimon T, Sakagami M.	Auris Nasus Larynx	2014. 10.	国外
慢性副鼻腔炎による嗅覚障害	都築建三	におい・かおり環境学会誌	2014	国内

IV. 研究成果の刊行物・別刷

綜 説

好酸球性副鼻腔炎 (JESREC Study)

1) 福井大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学, 2) 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科耳鼻咽喉・頭頸部外科学, 3) 東邦大学医学部耳鼻咽喉科学, 4) 東京慈恵会医科大学耳鼻咽喉科学, 5) 獨協医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科, 6) 横浜市立大学附属市民総合医療センター耳鼻咽喉科, 7) 広島大学大学院医歯薬保健学研究院耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学, 8) 札幌医科大学医学部耳鼻咽喉科学, 9) 自治医科大学附属さいたま医療センター耳鼻咽喉科, 10) 三重大学大学院医学研究科耳鼻咽喉・頭頸部外科学, 11) 東京大学医学部耳鼻咽喉科学, 12) 金沢医科大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学, 13) 大阪医科大学耳鼻咽喉科学, 14) 島根大学耳鼻咽喉科学, 15) 順天堂大学耳鼻咽喉科学, 16) 日本赤十字社和歌山医療センター耳鼻咽喉科, 17) 筑波大学医学医療系遺伝医学, 18) 理化学研究所統合生命医科学研究センター, 19) 東京慈恵会医科大学分子疫学

藤枝 重治 ¹⁾	坂下 雅文 ¹⁾	徳永 貴広 ¹⁾	岡野 光博 ²⁾	春名 威範 ²⁾
吉川 衛 ³⁾	鴻 信義 ⁴⁾	浅香 大也 ⁴⁾	春名 眞一 ⁵⁾	中山 次久 ⁵⁾
石戸谷 淳一 ⁶⁾	佐久間 康徳 ⁶⁾	平川 勝洋 ⁷⁾	竹野 幸夫 ⁷⁾	氷見 徹夫 ⁸⁾
関 伸彦 ⁸⁾	飯野 ゆき子 ⁹⁾	吉田 尚弘 ⁹⁾	小林 正佳 ¹⁰⁾	坂井田 寛 ¹⁰⁾
近藤 健二 ¹¹⁾	山嵜 達也 ¹¹⁾	三輪 高喜 ¹²⁾	山田 奏子 ¹²⁾	河田 了 ¹³⁾
寺田 哲也 ¹³⁾	川内 秀之 ¹⁴⁾	森倉 一朗 ¹⁴⁾	池田 勝久 ¹⁵⁾	村田 潤子 ¹⁵⁾
池田 浩己 ¹⁶⁾	野口 恵美子 ¹⁷⁾	玉利 真由美 ¹⁸⁾	広田 朝光 ¹⁸⁾	意元 義政 ¹⁾
高林 哲司 ¹⁾	富田 かおり ¹⁾	二之宮 貴裕 ¹⁾	森川 太洋 ¹⁾	浦島 充佳 ¹⁹⁾

Key words: eosinophilic chronic rhinosinusitis — JESREC Study — refractory chronic rhinosinusitis

EOSINOPHILIC CHRONIC RHINOSINUSITIS

Shigeharu Fujieda¹⁾, Masafumi Sakashita¹⁾, Takahiro Tokunaga¹⁾, Mitsuhiro Okano²⁾, Takenori Haruna²⁾, Mamoru Yoshikawa³⁾, Nobuyoshi Ohtori⁴⁾, Daiya Asaka⁴⁾, Shinichi Haruna⁵⁾, Tsuguhisa Nakayama⁵⁾, Junichi Ishitoya⁶⁾, Yasunori Sakuma⁶⁾, Katsuhiro Hirakawa⁷⁾, Sachio Takeno⁷⁾, Tetsuo Himi⁸⁾, Nobuhiko Seki⁸⁾, Yukiko Iino⁹⁾, Naohiro Yoshida⁹⁾, Masayoshi Kobayashi¹⁰⁾, Hiroshi Sakaida¹⁰⁾, Kenji Kondo¹¹⁾, Tatsuya Yamasoba¹¹⁾, Takaki Miwa¹²⁾, Kanako Yamada¹²⁾, Ryo Kawata¹³⁾, Tetsuya Terada¹³⁾, Hideyuki Kawauchi¹⁴⁾, Ichiro Morikura¹⁴⁾, Katsuhisa Ikeda¹⁵⁾, Junko Murata¹⁵⁾, Hiroki Ikeda¹⁶⁾, Emiko Noguchi¹⁷⁾, Mayumi Tamari¹⁸⁾, Tomomitsu Hirota¹⁸⁾, Yoshimasa Imoto¹⁾, Tetsuji Takabayashi¹⁾, Kaori Tomita¹⁾, Takahiro Ninomiya¹⁾, Taiyo Morikawa¹⁾ and Mitsuyoshi Urashima¹⁹⁾

Department of Otorhinolaryngology Head & Neck Surgery, University of Fukui¹⁾, Department of Otolaryngology Head & Neck Surgery, Okayama University Graduate School of Medicine²⁾, Department of Otorhinolaryngology, Toho University³⁾, Department of Otorhinolaryngology, Jikei University School of Medicine⁴⁾, Department of Otorhinolaryngology Head & Neck Surgery, Dokkyo Medical University⁵⁾, Department of Otorhinolaryngology, Yokohama City Medical Center⁶⁾, Department of Otorhinolaryngology-Head & Neck Surgery, Hiroshima University⁷⁾, Department of Otolaryngology, Sapporo Medical University⁸⁾, Department of Otolaryngology, Jichi Medical University Saitama Medical Center⁹⁾, Department of Otorhinolaryngology Head & Neck Surgery, Mie University Graduate School of Medicine¹⁰⁾, Department of Otolaryngology, University of Tokyo¹¹⁾, Department of Otorhinolaryngology, Kanazawa Medical University¹²⁾, Department of Otolaryngology Head & Neck Surgery, Osaka Medical College¹³⁾, Department of Otorhinolaryngology, Shimane University¹⁴⁾, Department of Otorhinolaryngology, Juntendo University¹⁵⁾, Department of Otorhinolaryngology, Japanese Red Cross Society, Wakayama Medical Center¹⁶⁾, Department of Medical Genetics, University of Tsukuba¹⁷⁾, Laboratory for Respiratory Diseases, Center for Genomic Medicine, Institute of Physical and Chemical Research (RIKEN)¹⁸⁾, Division of Molecular Epidemiology, Jikei University School of Medicine¹⁹⁾

Abbreviations: JESREC Study “Japanese Epidemiological Survey of Refractory Eosinophilic Chronic Rhinosinusitis Study”, CT “computer tomography”, ESS “endoscopic sinus surgery”, NSAID “non-steroidal anti-inflammatory drugs”

藤枝重治: 福井大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 [〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下月合 23]

E-mail: sfujieda@u-fukui.ac.jp